

写

「五條市小中学校の今後の在り方に関する懇話会」  
まとめと提言

平成 26 年 2 月 18 日

奈良県五條市教育委員会  
教育長 堀内 伸起 殿

ご依頼のあった「五條市小中学校の今後の在り方に関する懇話会」を全3回開催し、また先進校視察を通じて得られた話し合いの経過と提言をまとめましたので以下ご報告いたします。

#### 「五條市小中学校の今後の在り方に関する懇話会」のまとめと提言

これまでの経過を整理すると、懇話会での意見は以下のような流れを経てきた。

まず第1回目の会議では、1) 子どもたちが減っていく状況の中で、どのような取組が可能か（市の政策とも関わって、学校力をどのようにパワーアップしていくか）、2) 公立校はどのような取組が可能か（何を目指すのか、どのような力をつけていくのか）、3) 少人数の取組と、適正規模の取組のそれぞれのメリットやデメリット、などについて考える意見が出された。

結果として、他の自治体での先進的な取組をしているところを実際に訪問し、直接その効果や課題、また推進までの経過などについて話を伺うこととなった。

第2回目の会議では、上記視察の結果（8月ほか）に基いて、以下8点の意見が出された。

1) 小中連携や一貫教育に関わって、施設一体型と比べると校舎が離れた分離型は、取組を進めることは容易ではない。また、この先の子どもの人数なども考えると、今後は、学校の統廃合を考えざるを得ない。その際、小中一貫の導入を視野に入れてはどうか。まずは、モデル校で実践を進める中で、その可能性の検討をしていく必要がある。

2) 教員の意識や保護者、そして地域の思いを知る必要がある。

3) 小中一貫教育は手段であり、五條市として育てたい子ども像、つけたい力と関わって、最適な方法を考えていく必要がある。

4) 子どもたちの学習への意欲を高める取組が必要である。

5) 学校の規模などにも目を向けて取り組んでいく必要がある。

6) 対策へ向けて具体的に論議をしていく必要がある。

7) 地域の実情をおさえたいうえで、五條市の人材育成という視点から教育ビジョンを明確にしていく必要がある

8) キャリア教育などを意識した取組も必要がある。

まとめると第2回会議の大きな意見の流れとしては、データ分析の結果、視察の結果などから五條市の子どもの現状、そして今後を見通して考えると、「地域の実情をおさえたいうえで、五條市の人材育成という視点から教育ビジョンを明確にし、それを具体化していく1つの方法として、小中一貫教育のモデル校などで具体的な実践を積む中で、子ども

たちの学習への意欲を高める取組が必要である」、それを考えていこうとする方向性が意見の大半を占めた。そしてより具体的にどのように進めていくかに時間をかけたいという意見が出されるに至った。

最後に第3回の会議では、第2回までの結果を受けて、最終的に懇話会まとめ（提言）に向けて、次のような意見交換が行われた。

1) 今までもらった資料を見ていくと、学校規模の適正化、適正配置が一番大きな問題だと感じている。小中一貫を根底に置いた適正規模や教育内容の検討をしていくとよいのではないか。

2) 現状の課題（子どもの数が減り、1つの学校の学級数に関わる国の基準（学校適正）とずれが生じている五條市のこの現状）を、保護者や地域の人々にも丁寧に説明して、何が子どもにとって重要か理解してもらえるように努めることが重要である。

3) より具体的な育てる力についての目標を掲げ、人材育成を視野に入れた取組が必要ではあるが、地元に残って、それを支える人材育成という観点もあるとうれしい。地域の実情を押さえた上での教育ビジョンを明確にして取り組む必要がある。

4) すべての子が自分に自信を持てる多様な幅を持った教育活動、五條の歴史や自然、文化などのすばらしさを知り、誇りを持てる教育活動、などを大切にしていってらどうか。それには具体的なスローガンとなる「〇〇宣言」なども示せるといい。

5) 戦後60年、ずっと6・3制できていたが、60年前と今の子どもの発達や社会状況がかなり変わってきているので、6・3制にこだわる必要はないと思う。今の子どもたちに合うものを、実際に学校や子どもたち（在校生だけでなく、卒業生も）の声を拾い、考えていってらどうか。

以上のような意見から、本懇話会で出された意見として、大きく二つの柱が明らかになった。

1つは、五條市のこれからの学校適正規模をどのように考えていくかということであり、もう1つは、五條市の人材育成を視野に入れた子どもにどのような力を培っていくかということである（教育内容の検討）。そしてその両方に関わってくるのが、小中一貫教育という考え方であり、9年間を通した教育体制をどう構築するかである。

したがって、本懇話会の提言としては、現在出されている振興計画とも関連付けながら、小中一貫教育の是非と併せ、五條市の学校規模と配置の適正化が迫られていること、五條市が求める「子ども」の資質を子ども像としてどう描くのかを、主要な2つの柱として、次年度以降の五條市の教育の検討を要請したい。

平成26年2月18日

「五條市小中学校の今後の在り方に関する懇話会」

小柳 和喜雄 